

2017年8月実績概要(メモ)

(2017.9.21)

エチレンの生産増加に伴いLD、HDを筆頭として多くの誘導品の生産が増加。

1. 生産動向

イ) エチレン 560,200トン

前月比 +9.4% (+48,300トン)
 前年同月比 +10.9% (+55,100トン)

生産増減に係る諸要因	<前月比>	<前年同月比>
日数増減	-	-
定修要因等	+10.1%	+10.1%
能力増減	-	-
稼働率変動	▲0.7%	+0.8%
生産増減率	+9.4%	+10.9%

稼働プラントの実質稼働率試算：前月96.1%→当月95.5%←前年同月94.8%
 定修プラント：前月2社2プラント→当月1社1プラント←前年同月1社1プラント

ロ) 主な石油化学製品

前月比では、定修規模差や稼働率要因からLD、HD、塩ビ樹脂、塩ビモノマー、EG、BR、ベンゼン、キシレンなどの13品目がプラス。PS、SBRなどの4品目はマイナスとなった。

前年比では、主に稼働率要因からLD、HD、PS、SM、EO、EG、AN、SBR、ベンゼン、トルエン、などの13品目がプラス。PP、BRなどの4品目はマイナスとなった。

2. 樹脂の生産・出荷状況(LD、HD、PP、PS)

イ) 生産

前月比では、LD、HDでは主に稼働率の上昇から大幅なプラス、PPは定修規模の差もあり微増となった。PSは稼働率要因等からマイナスとなった。

前年比では、LD、HD、PSは稼働率要因等からプラス。PPは稼働率要因及び定修系列数の増加からマイナスとなった。

ロ) 国内出荷

前月比では、夏期休暇に伴うユーザーサイドの稼働日数の減少からLD、HD、PP、PSの4樹脂ともに1割程度のマイナスとなった。

前年比では、LDはフィルム等の主要分野での出荷が増加したほか、PPでは射出成形分野における出荷増加が継続していること、また、PSではFS、雑貨・産業用の出荷が増加し、それぞれでプラスとなった。HDはフィルム分野でのマイナスが続いているとともに当月は中空成形分野の出荷がやや減少しマイナスとなった。

ハ) 輸出

ポリオレフィンでは、10千トン前後の低レベルの輸出が継続している。当月は、僅かながら数量が増加したこともあり、前月比でLD、HD、PPではプラスとなった。前年比では、HDはプラスとなったが、LD、PPでは依然としてマイナスが続いている。

ニ) 在庫

在庫量は、LD、HD、PP、PSで増加した。在庫率(季節調整済)は前月に対してLD、PPは低下、HDは上昇、PSは前月並みとなった。在庫水準としては、LD、PSではほぼ適正、HD、PPはややタイト傾向となっている。

	前月対比増減量 (単位:トン)	季節調整済在庫率(単位:ヶ月)	
		7月末	8月末
LD	+16,600	3.0	2.9
HD	+18,500	2.2	2.4
PP	+22,500	2.7	2.5
PS	+4,000	1.4	1.4

以上